

昭和55年度 和歌山県名匠

【木地師】

おか だ とら じ ろう
岡 田 虎 次 郎

【現住所】海南市

【生 年】明治34年

職 歴

13歳の頃から、父の手ほどきを受け、木地作りの技術を習得。昭和7年に独立し、この道一筋に黒江漆器の良質な木地作りに励んでいる。

業績の概要

漆器の木地は、塗りや加飾の基礎となるものであり、木地の品質により製品の良否が左右されるため、木地作りは目立たないが極めて重要な仕事である。

木地の種類には、板もの、曲げもの、挽きものの三種があるが、氏は免状盆、文庫、三方、茶箱、銘々皿、祝膳その他あらゆる板ものを製作する。

木品製作までには、素材の選択、乾燥、木取り、はぎ合せ、削り、再乾燥の工程を経るが、年月を経てもくるいの出ない製品作りに多くの実績を残し、業界の信頼を得ている。

最盛期には海南市で約120軒あった木地作りも、現在では20軒程になっている中であって、昭和54年2月、伝統的工芸品産業振興協会から、伝統工芸士の認定を受けている。